

2018年11月3日[土]-2019年1月27日[日]



森村泰昌(赤松玉女との共作)《男の誕生》(部分)1988年 200×276 cm カラー写真にアクリルで彩色

M@m開館記念展
君は『董色のモナムール、其の他』を見たか？
森村泰昌 もうひとつの1980年代

森村泰昌が本格的に作品を発表し始めたのは、1980年代半ばのことでした。

本展では、初めてのセルフポートレート作品による個展「董色のモナムール、其の他」(1986年、ギャラリー白)の展示の再現にくわえ、モノクロの風景写真や、交通標識に扮した自画像、ポッティチェリの《ヴィーナスの誕生》に倣った《男の誕生》など、滅多に見ることができない作家秘蔵の80年代作品約30点をご覧ください。

モリムラの初期作品の面白さが概観できるとともに、1980年代の日本の現代美術の知られざる扉を開ける重要な手がかりになることでしょう。

※なお本展と同時期に開催される、下記の展覧会にも森村泰昌の作品が展示される予定です。
「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」11月3日[土]-2019年1月20日[日] 国立国際美術館
「起点としての80年代」11月3日[土]-12月16日[日] 高松市美術館

主催：モリムラ@museum
特別協力：千島土地株式会社

会期：2018年11月3日[土]-2019年1月27日[日]
開館時間：毎週金・土・日曜日の12:00-18:00
※12月24日と1月14日は開館、12月25日-1月10日は休館
入場料：一般・大学生=500円/高校生・中学生=200円/
小学生以下=無料

—
オープニング・セレモニー & パーティ：
11月3日[土]13:00-15:30
・森村泰昌によるご挨拶とミニトークがございます。
・なお、当日は入場無料とさせていただきます。
・ご入場いただけるのは13:30頃からになります。

1. 森村泰昌
《肖像(歩く人)》
1986年
2. 森村泰昌
《だぶらかしF》
1987年
3. 森村泰昌
《肖像(娘II) / ベルギー版》
1988年
4. 「董色のモナムール、其の他」展
会場風景(1986年)



モリムラ@museum

morimura@museum in Kitakagaya, Osaka

2018.11.3 OPEN

M@m開館記念展

君は『董色のモナムール、其の他』を見たか？

森村泰昌 もうひとつの1980年代

2018年11月3日[土]-2019年1月27日[日]

m@m
morimura@museum

モリムラ@ミュージアム 2018.11.3 OPEN

“ひろく、ふかく、ながく”を求めて—2018年秋、大阪・北加賀屋に森村泰昌の新たな美術館がオープンします。

M@Mって何ですか？

モリムラ@ミュージアムは、M@M(エム・アット・エム)と呼ばれています。美術家・森村泰昌の作品がいつでも見られる、スペシャルな美術館です。フロア面積は400㎡。ふたつの展示室とライブラリー、サロン、ミニシアター、ショップがあり、それぞれの部屋にはモリムラによって名前がつけられています。

白い闇の回廊 | Gallery I

約7.8×15.7mの長方形の展示室。家具店のショールームとして使われていた部屋をリノベーションし、白い壁とコンクリートの床によるニュートラルな展示空間を創出します。レンブラントの《屠殺された牛》をモチーフにしたモリムラの《白い闇》(1994年)から命名されました。

時をかける箱庭 | Gallery II

「白い闇の回廊」と隣り合う、約7.8×7.8mの正方形の展示室。時間を越えて自由自在に行き交うアートが、小さな空間に無限に広がるさまをイメージして、こう名づけられました。

ギ・装置 M | Cinema

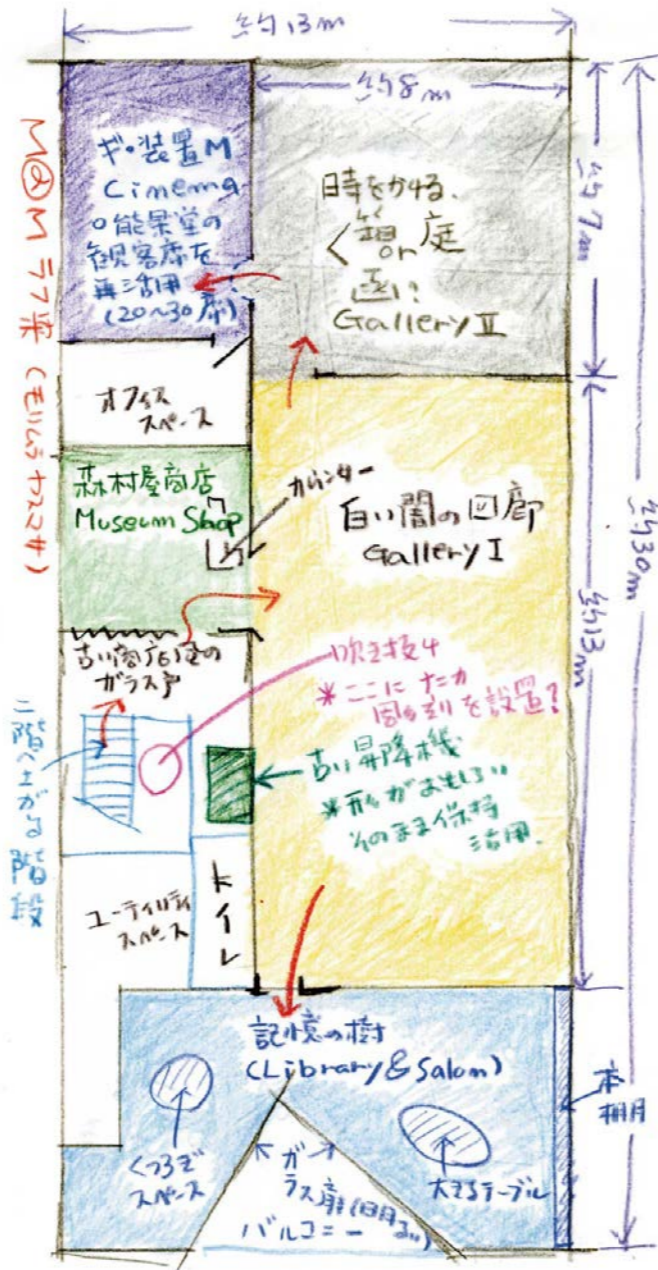
客席24のミニシアター。モリムラの映像作品を上映するほか、レクチャーやトークの会場としても使われる予定です。
1996年に横浜美術館で開催された「森村泰昌展 美に至る病—女優になった私」で初公開された実験映画《ギ・装置 M》(監督:伊藤高志)にちなんでいます。なおこの映画タイトルは、東京大学名誉教授・小林康夫氏によって考案されました。

記憶の樹 | Library & Salon

森村泰昌の展覧会カタログや著書など、アーカイブ資料が並ぶライブラリーと、静かで落ち着いてくつろぎのためのサロン。木製の本棚を木の幹に、書籍の数をそこから茂る葉になぞらえた「記憶の樹」のスペースでは、過去から現在までのモリムラの活動の全てを閲覧いただけます。光がふんだんに差し込む、居心地のよい空間です。

森村屋商店 | Museum Shop

モリムラの展覧会ポスターや各種ポストカード、特製モリムラTシャツ、オリジナルマルチプル作品、入手困難なカタログや書籍など、他所では手に入らないモリムラグッズを取り揃え、お待ちしております。



M@Mの目指すものって何ですか？

M@Mは、三つの目標を掲げています。

1.「ひろく」

国内、海外を問わず
さまざまなところから、さまざまな人に来ていただける場所になる

2.「ふかく」

モリムラの活動や
芸術・文化についてもっと知りたい方が
深く学べる場所になる

3.「ながく」

人々が何度でも訪れたいくなる場所、
何時間でも過ごしたくなる
場所になる

M@Mでは年に二回の展覧会、トークやレクチャーなど各種プログラムを予定しています。

森村泰昌(1951-)

大阪生まれ。同在住。京都市立芸術大学美術学部卒業、専攻科を修了。1985年にゴッホの自画像をまねたセルフポートレイトを発表。以降、名画や女優、20世紀の偉人たちに扮した写真や映像を手がける。映画出演や

文筆活動にも精力的に取り組み、2014年には横浜トリエンナーレのアーティストック・ディレクターを務めた。今秋は、ニューヨークのLuhring Augustineやジャパン・ソサエティ、東京のShugoArtsで個展が開催される。

M@Mは、なぜ北加賀屋にできたのですか？

M@Mがオープンするのは、大阪市住之江区の北加賀屋という町です。大阪湾にほど近く、かつては多くの造船所があって賑わいを見せたこの地域は、1980年代から次第に活気を失っていききましたが、2004年に名村造船所跡地が近代化産業遺産に指定されたのをきっかけに、芸術・文化の発信地として活用する取り組みが始まりました。2009年には「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ構想」がスタート。アーティストやクリエイターたちの活動拠点となっています。

森村泰昌との縁も深く、初の長編映画《「私」と「わたし」》が出会うとき—自画像のシンポジオン—(2016年)での撮影にあたって、北加賀屋のいくつも

の場所がロケ地となりました。また、この映画が初公開された国立国際美術館での個展「森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が出会うとき—」と同様に、北加賀屋の名村造船所跡地にある「クリエイティブセンター大阪」では、「森村泰昌アナザーミュージアム」と題して、映画で用いたセットや小道具などを展示する展覧会(主催: NAMURA ART MEETING '04-'34実行委員会)も行われました。

そしてこのたびオープンするM@Mは、名村造船所跡地をはじめ周辺土地を所有・管理する千島土地株式会社から展示場所をご提供いただくほか、建物の改修費や今後の運営経費についても多大なご協力を賜っています。



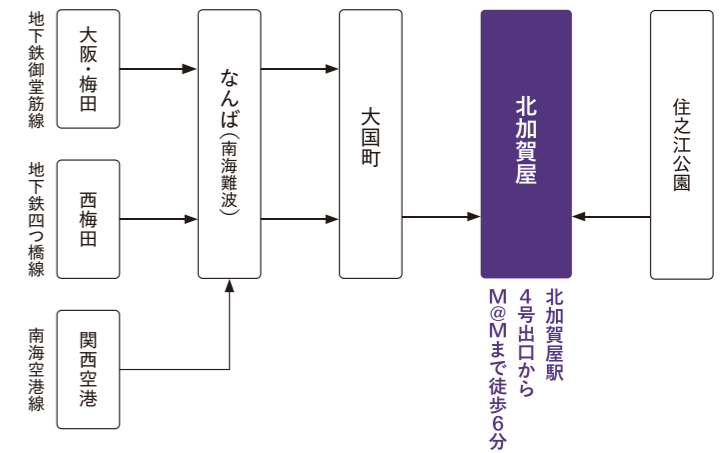
「森村泰昌アナザーミュージアム」展示風景(2016年)



《「私」と「わたし」が出会うとき—自画像のシンポジオン—》(2016年)より

M@Mは、どこにあるんですか？

- Access 1 大阪・梅田駅から地下鉄御堂筋線で大国町駅まで約10分、地下鉄四つ橋線に乗り換えて約8分、北加賀屋駅4号出口からM@Mまで、徒歩6分
- Access 2 地下鉄四つ橋線西梅田駅から約17分、北加賀屋駅4号出口からM@Mまで、徒歩6分
- Access 3 関西空港駅から南海空港線でなんば駅まで約50分、地下鉄四つ橋線に乗り換えて10分、北加賀屋駅4号出口からM@Mまで、徒歩6分



モリムラ@ミュージアム(M@M)
〒559-0011
大阪府大阪市住之江区
北加賀屋5-5-36 2F
—
[お問い合わせ先]
E-mail: morimuraatmuseum@gmail.com
www.morimura-at-museum.org

お車でお越しの場合は、
お近くのコインパーキングをご利用ください。